



### 時流自流

技術者不足が深刻化する中、建築・土木の施工管理技術検定試験の最終合格率は10%台半ばにとどまる。施工管理技士を少しでも多く世に送り出そうと、国家資格対策センターはeラーニングによる資格取得動画講座を開講。時間と場所を選ばないこの講座が奏功し、昨年度の合格率は全国平均の3倍を超えたという。同センターの福崎昭一理事長に好成绩の要因などを聞いた。

「なぜ施工管理技術検定による講座を開講したか。」「何と言っても場所と時間を選ばないこと。これまでの講習会などは場所と時間が指定されていたので、仕事の都合や疲れで会場に行かない人も多くいた。働きたい資格を取るには強きながら資格を取るには強い意志がないと続かない。」「1級建築士は司法試験と肩を並べるほど難易度の高い試験だが、施工管理技術検定の試験はそこまで難しい試験ではない。十分な学習時間さえ確保できれば、合格を手に入れる資格だ。とはいえ、独学や短期の講習会だけで合格を果たすのは難しい。ここ数年の合格率がそれを証明している。もともとインターネットを使った教材開発のノウハウがあったので、受験対策を根本から見直し、インターネット時代に即した受験対策としてeラーニング

### 国家資格対策センター理事長 福崎 昭一氏



「現在の合格状況は。」「建築、土木とも高い合格率を維持している。昨年度の2級建築施工管理技術検定の学科試験は約85%の受講生が合格した。全国平均(44.9%)の倍近い合格率だ。実地試験の合格率は約60%で最終合格率は51%と半数を超えた。過去6年の全国平均は17.9%だったので、3倍近い合格率を達成したことになる。先日合格発表があった本年度の1級建築施工管理技術検定の学科試験でも全国平均の39.7%を大幅に上回る52.7%と高い合格率を維持している」

### 合格率は全国平均の3倍

### 施工管理検定講座、いつでもどこでも受講

「無駄な時間や費用をかけずに済んだとか、理解するまで何回でも講座を見ることができて理解が深まったなど、いろいろな声が寄せられている。本を開くとにアレルギーがあった人が、スマートフォンなどで自然に勉強に入れたなど、時代を反映した感想が多いのも特徴だろう」

「建設の技術者は今後不足が見込まれる。できるだけ早く有資格者を世に送り出し、建設産業を支援したい。建設産業のスキルアップが求められる中で、資格の位置付けはますます重要になる。今後も建設業の実態に合った教材や講座の開発に傾注したい」

(こくさき・しょういち) 71年日本大学卒、72年大和観光入社、81年ワールドエール創業、03年タイエットアカデミー創業、14年国家資格対策センターを設立し理事長に。68歳。